

アブラハヤ

Phoxinus logowskii

種名



分類

コイ目コイ科ヒメハヤ属

形態的な特徴

タカハヤによく似るが本種の方がややスマートで特に尾柄が細く長い。頭部もやや細長く、眼はやや大きい。鱗は小さく、横列鱗数(特に上部横列鱗数)が多い。側線は完全で体側のほぼ中央を縦走する。体色は淡い黄褐色ないしやや緑色を帯びた灰褐色で、背部は濃く腹部は銀白色ないし淡い真鍮色である。背中線上のものは頭部後方から尾びれまで連続する。体側中央の縦条は眼窩付近ないしえらぶたあるいはその後方から尾びれ基部直前まで走り、尾びれ基底中央では黒点となっている。また、体側にごく細かい小さな斑点が分布するが、体側中央の黒い縦条付近に集中し、背中線周辺や、側線より腹方にはほとんど無いものが多い。

一般にの方が大きくなる。産卵期には、の生殖突起の突出は特に著しくなり、また成熟したの物はへら状に伸びるが、その程度は個体によってさまざまである。

分布

日本では本州のみに分布。日本海側では青森県から福井県にかけて、太平洋・瀬戸内海では青森県から岡山県までに分布する。国外では朝鮮半島の日本海側河川から沿海州にかけてと中国東北部に分布する。

繁殖行動

産卵期は一般に春から初夏にかけて、中部地方や近畿地方では若アユが上ってくる時期とほぼ一致する。静岡のような温暖な地方では早くて、4月下旬～5月下旬が盛期となる。産卵場は主として淵や平瀬の砂泥底または砂礫底のところである。砂礫中の卵は1週間で孵化し、浮上した仔魚は淵尻の淀みの岸近くに集まり表層に群れている。成長とともに中層、底層へと移り、さらには流れのあるところへ進出していく。

生息場所

主に河川の上流域から中流域にかけて住む。魚類相の単純な川ではしばしば下流域でも見つかる。また、池沼に棲むが、岸近くで生活する。

食性

雑食性で、淵や平瀬の底層にいて、底生動物やその流下物、付着藻類などを食べ、山間部に棲むものでは落下昆虫なども食べる。

生息環境への配慮事項

本種を永続的に保護するためには、産卵場となるようなところを確保することと、普段生活する川に多様な流れを作ることが重要である。